

幼稚園において楽しくきまりを身に付けるための指導法について

二階堂年恵(広島文化学園大学)

合原 晶子(広島文化学園大学)

1. はじめに

幼稚園は子どもが生まれて初めて社会生活をするところである。幼稚園の集団生活で必要なきまりを知り身に付けることは、幼稚園の大きな役割である。よって教師は子ども同士がより良く関わり合えるような活動や支援を考えなければならない。現在幼稚園においては、幼稚園教育要領に基づいて子どもたちの発達段階に応じて、きまりに関する教育が行われているが、今後は規範意識の育成をより具体的で実践的な学びで取り入れていく必要があるだろう。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領によれば「規範意識の芽生え」とは、「友達とさまざまな体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつけながら、きまりをつくったり、守ったりするようになること」と示されている。つまり、きまりは教師が言葉で伝えるより、子どもたちが友達と関わる中で少しずつ身に付けていくものであり、教師は、子ども同士がより良く関わり合えるような活動や、必要に応じて子どもたちの間に入り、働きかけることが求められているのである。特に幼児期は、遊びの中から様々なことを学ぶので、幼児にとって遊びとは「学習」そのものなのである。本発表では、遊びを通して楽しくきまりを身に付ける指導法についての報告を行う。

2. 5歳児における指導について

1 グループ 4~5 人に分け、かるた遊びをする中でまずは幼児たちで読み手を決めてもらい遊びを進めていく。その中で生じたトラブルも幼児たち同士で解決させるようにする。振り返りの際、勝敗や順位だけでなく、幼児が遊びの中で味わった色々な気持ちについて言葉で表現出来るようにしておき、困ったり嫌な気持ちだったりした時の気持ちを2枚のカードで示しながら他の幼児に伝わるようにする。同時に周囲の幼児の気持ちも聞いて全員で共有する。互いの気持ちを理解した上でどのようにしたら良いか解決策を考え、場面ごとにルールを決める。その際相手を思いやる言動が出来ている幼児を教師はしっかり認め、他の幼児にも気付かせていく。その後再びかるた遊びをする。教師は幼児がルールを守っている場面を見つけしっかりと褒め、幼児にルールを守ることの気持ちよさを味わわせる。

3. おわりに

幼児たちは遊びの中で、互いに自分の考えを出し合ううちに、様々な考え方があるということを知り、それを理解した上でその考え方を受け入れたり、自分とは異なる考えでも尊重したりしながら、さらにルールを確立するという規範意識の芽生えがなされることを可能にすることが出来るのである。この過程を通して、遊びのルールやトラブルの解決に対して共同して取り組むことの出来る力を育むことが可能になり、5歳段階における規範意識の醸成といった点における役割は果たせるのではないかと考える。